

令和元年度 第3回大田区自転車活用推進委員会 議事要旨

- 1 日 時 令和元年10月23日(水)午後2時から4時まで
- 2 会 場 大田区区役所本庁舎11階 第5・第6委員会室
- 3 出席者 「委員名簿」のとおり
- 4 報 告
 - (1) 第2回委員会のまとめについて(資料1)
 - (2) 本日の報告・議事及び計画の進め方について(資料2)

松本委員	「おおたフェスタ」で調査を実施することになっているが、これは前回委員会の意見を反映したということでしょうか。
事務局	前回の委員会ではアンケート調査を実施するという報告をした。今回の調査はそれとは別に、大田区がこれから自転車を活用していくことをPRすると同時に、区民の方に「暮らし」、「観光」、「健康」の視点で意見の聞き取りをする調査である。
松本委員	調査方法は、1つのブース内で実施するものか。
事務局	1つのブース内でA1のパネルを使って、「暮らし」、「観光」、「健康」という活用のキーワードを示して、聞き取り調査を行う。 また、先日「空の日フェスタ」というイベントにおいて、足を運んでいただいた方に、「観光」の視点から大田区のディープなスポットを地図に付箋を貼って記入していただくという調査も行った。
松本委員	この区の連携という施策は、区民や企業の連携というよりも、区役所が主体となるものか。
事務局	この調査結果は、今後、施策案を説明する際の情報提供の資料として使用することを考えており、区の主導というよりも、話し合いをするための資料作りとしての調査と考えている。
谷田川委員	所管の立場からの補足としては、今回アンケート調査を実施させていただきましたが、アンケートだけでは把握できない、区民の方が知っている穴場スポットなどの情報を入手して、今後の観光ルート等の情報提供の施策展開にあたっての参考資料としたいと考えている。 また、計画の進め方で、先行施策としてのキーワードが前面に出ていますが、先行施策をやりながら、その成果を検証して、次の施策に生かすことを考えていますので、先行施策単体よりも全体の計画の中でとらえていただければと思う。
屋井委員長	計画のスケジュールで、区民の意見の収集を増やすことは、大いにやっていただきたい。しかし、逆に減らすということであれば、委員会に1度は諮ってほしい。

(3) 自転車に関するアンケート調査の報告について（資料3）

屋井委員長	大田区のアンケート調査は、紙面での調査票の郵送配布・回収であるにもかかわらず、非常に回収率が高い。
屋井委員長	羽田空港はアンケート結果からも非常に魅力のある観光スポットだと思う。自転車で廻ることができれば非常に爽快感のあるコースになると思っており、そういった内容を計画に盛り込めたらと昔から思っている。国や航空局等との調整が必要になると思うが、インフラ面でどのあたりまでならば廻ることができるのかといったことを調べておくと、今後いろいろな計画に繋がっていく可能性があると思う。
落合委員	実際には、環八外から内側には自転車では入ることができない。国際線ターミナルまで行くことはできるが、走行することは非常に怖い。
屋井委員長	今、いきなり走っていただくということではなく、川辺や海辺があるので専用道を作るといった提案です。セキュリティの問題などはあるが、道路整備の観点からすれば、羽田空港では専用道を整備をしようと思えばできると思う。
室谷委員	大田区民の意識は非常に高いことを感じた。非利用者の方でも安全講習に対するニーズが高いことや観光ルートへの意見が多かったことなどから自転車活用に対する期待はあると思う。自転車の乗り方教室や「散走」のように地域をめぐるといった機会を設ければ、大田区でも、他の地域で見られたように、自転車を楽しく活用することで、区民の矢羽根表示の認知度や交通ルール・マナーが向上する可能性があると思う。
室谷委員	ヨーロッパをはじめとした海外では、サイクルトレインのような取り組みが当たり前のように行われており、日本への海外観光客が増える中で、海外からの玄関口となる羽田空港のある大田区の果たす役割は非常に大きいと思う。
松本委員	アンケートの問16で、「サイクリングマップの作成」と同様に期待の大きい「親子で参加する乗り方教室」について、ぜひ意見を取り入れて区民参加型の先行施策として検討してもらいたい。
松本委員	保険の加入状況については、アンケート結果から大田区民の半分が加入していないということになる。東京都が条例改正で努力義務から義務化した現状を踏まえて、区民に対してしっかりと保険加入の促進をしていただきたい。できれば、今後の活用における施策体系の中にしっかりと入れ込んでいただきたい。
北方委員	問14の自転車交通安全教育への参加状況の調査結果は非常に興味深い。自転車交通安全教育に参加した経験がない人がほとんどだと思われる中で、自分自身で勉強した人や、自らセミナーに参加した人がこれだけいる。

	<p>問 16 でも「親子で参加する乗り方教室」を多くの人が希望されているので、特に子どものいる家庭に対して、保護者がしっかりと自転車教育を学んで、子どもたちに伝えていく場を定期的に設けられれば良いと思う。</p>
北方委員	<p>「おおたフェスタ」で聞き取り調査を行う話があったが、そういったイベントでメーカー等企業に協力いただいて、試乗会や安全な乗り方講習会などをできれば、なお良いと思う。</p>
北方委員	<p>保険の加入の義務化については、加入不明者をどう扱うのかが問題。加入していない人に加入をしてもらうのは、もちろんだが、加入しているかどうか分からない人に保険の証書を確認してもらうことや、保険屋に問い合わせってもらうことなど、保険の加入状況が分からない人への対応が必要だと思う。</p>
萩山委員	<p>アンケートの問 12 で、車道・歩道通行の区別がわかりづらいことや幅寄せが怖いといったことに回答が集まっている。</p> <p>歩道と車道の段差があるために、歩道に上がりたくても上がれない箇所があるなど、乗っている人たちがわかっていてもできないことや自転車事故の中でも自損事故では道路インフラによって引き起こされているものが多い。</p>
屋井委員長	<p>歩道を走っている人は、交差道路があるので、歩道をずっと走ることはできない。波打った道路を、降りたり上がったりして走ることになり、段差があるため危ない。</p>
萩山委員	<p>今は道幅を広げるために、道路を拡張しているところが多くあるので、自転車利用者もどこを走ればよいのかわからなくなっていると思う。</p>
屋井委員長	<p>ネットワーク上やガイドラインでも、危険を感じたら緊急避難として歩道に入ることができるかとされている。これは、他国でも同様にある。緊急避難に配慮すべき箇所は、場所によってある。ただし、バリアフリー化は自転車のためだけにあるのではない。</p>
屋井委員長	<p>幅寄せに関連して、個人的な意見になるが、東邦医大通りのような、視覚分離で自歩道を設ける方法は良くないと思う。</p> <p>理由としては、自動車のドライバーに、自転車の走る場所は歩道だと誤解させていると思うからである。自歩道があるにもかかわらず自転車が車道を走っているとクラクションや幅寄せをされることが正当な行為に思われてしまう。大田区での幅寄せもそういった理由によるのではないかと思う。</p>
柏原委員	<p>アンケートの問 9、10 で、自転車に乗っている人の 9 割近くが自転車のヒヤリ・ハット体験をしていることに驚いている。</p> <p>問 11 での「小さな交差点でも信号を必ず守る」というルールを守れない人が 26% もおり、問 14 では自転車安全教育に参加したことがない人が 6 割近くいる。保険加入の状況も未加入の人が 5 割いる。</p>

	これらの調査結果をみると、自転車は動く凶器であると思われかねない。自転車利用は健康面でのメリットもあるが、安全教育や保険の加入を強力に押し進めなければならないと感じた。
室谷委員	京都市の道路局では、警察の人に来ていただいてルール・マナー、安全5則を教えることとは別に、自転車教育にゲーム感覚で楽しみながらルール・マナーを教える方法を導入した。 そういった方法で、ルール・マナーを教える人たちも世の中に出始めているので、他の地域を参考にして、大田区民の皆さんが健康的で、安全で、楽しい自転車活用が促進されるようになっていけばいいと思う。
屋井委員長	デンマークと日本では、親の自転車交通のルール・マナーの順守状況に違いがあると思う。デンマークでは親が将来のモデルになるが、日本の場合はゲーム感覚で楽しく教えたその先をどのように示すのかについて改善する必要があると思う。

5 議 事

(1) 区民参加型の先行施策について(案) (資料4)

松本委員	「はねびょん健康ポイント」は自転車の利用でもポイントの付与ができれば素晴らしいと思う。 12月から事業を実施すると記憶しているが、間に合うのか。後から追加するという事か。
佐々木(信)委員	「はねびょん健康ポイント」事業は12/1からの実施を予定している。当初は自転車の利用ではなく、ウォーキングを中心とした運動で歩数や検診・受診状況をポイント化する仕組みであったが、自転車利用に関しても十分に関知した取り組みになっている。 ウォーキングコースを設定しており、スマホアプリとGPSを連動させて、コース上の特定のスポットに到達すると、ポイントが付与される仕組みになっている。これは移動手段が徒歩でも、自転車でも、車いすでも構わないという形で設計を進めている。
松本委員	これは、アプリをダウンロードできれば全て完結するものか、紙ベースになるのか。
佐々木(信)委員	基本はスマホのアプリを使っていただいて、広く普及したいと考えている。ただし、スマホを使っていない人もいますので、そうした人も紙などを使って参加できるようにしたいと考えている。 その場合は、ウォーキングマップも紙ベースで提供することを考えている。
松本委員	歩数であれば、万歩計のアプリと連動すると思うが、自転車でも連動するのか。
佐々木(信)委員	自転車でのアプリ活用は、スポットを回ることでのポイント付与を考えている。
屋井委員長	そのアプリは開発途上なのか、もう出来上がっているのか。

佐々木（信）委員	今、開発中である。
屋井委員長	今の意見などを踏まえて、工夫することができると思う。 一般的には自転車走行はカウントされないと思う。
室谷委員	そのアプリの中に自転車利用者への注意喚起やルール・マナーの徹底の情報提供を入れることで、安全意識が高まると思う。
佐々木（信）委員	12/1 のリリースに間に合わせるために、まずは必要最小限の機能でスタートしていく。 ルール・マナーの啓発については、スマホアプリのなかで、健康に関する情報をポップアップで提供することを考えている。その中で、自転車の安全利用に関する情報提供も可能だと考えている。
落合委員	自転車に乗ることでの健康への効果が本当にあるのかは、何年後かには検証できるようにする必要がある。健康というものを評価するパラメータが必要になる。 企業ではストレスチェックといって、精神的なストレスを測ることが義務化されており、アンケートでもストレス解消につながったという意見があった。また、メタボ対策で健康診断も義務化されているので、データはあると思う。ならば、モニターを募るなどして、そこまで検証をつなげるべきだと思う。
屋井委員長	今回、「はねびょん健康ポイント」もそこに加わることになった。 協力してくれる人の数を保証できないが、計画策定後であっても、モニターを募って検証を進めていく価値は十分にあると思う。
鈴木（麻）委員	アンケートの問 11 では、「スマホを使いながら運転しない」ことに対して、守れない人が 20% ぐらいいる。 アプリを使った「ながら運転」を誘発することになると、本末転倒だと思うので、アプリを使う際に、「ながら運転」をしないことやヘルメットを着用することなどの安全啓発が表示されるべきだと思う。
佐々木（信）委員	アプリを使って「ながら運転」をしないことは、おっしゃる通りだと思うので、アプリが起動するごとに安全が確保されることも考慮したいと思う。
屋井委員長	自転車に乗ることと健康の因果関係ははっきりしないところがあるが、逆にわくわくするから、自転車に乗りたいたから、健康でなければならないので、そういった生活をするということならば、問題はないと思う。 あまり厳しめに見ないで、モニタリングはしっかりやるし、もともと健康な人が自転車に乗っているということもあるので、そういった考え方もよいと思う。
柏原委員	今年の 10/14 に新スポーツ・健康ゾーンで「区民スポーツまつり」を行った。そこで新スポーツ・健康ゾーン内のスポーツ施設をめぐるスタンプラリーを開催したところ、雨天であったにも関わらず、全部で 6 施設を回った人が 1 名いた。

	<p>次年度からは、もう少しコミュニティサイクルを使っていくようにしていけたらと思う。</p> <p>また、「はねぴょん健康ポイント」でも、このエリアを活用できればと思っている。</p>
事務局	<p>先行施策をすすめるにあたり、自転車活用推進委員会とは別で、委員の方々に検討会にご協力いただきたいと考えている。そのことについてご承認をいただきたい。</p>
屋井委員長	<p>先行施策について、検討会を実施するという方向でよろしいか。</p> <p>はい。ありがとうございます。検討会の委員は自分で手を挙げていただくか、お誘いがあるのかわからないが、ぜひ積極的にご協力の意思をお示しただけるとありがたい。</p>

(2) 活用における施策の体系の検討について（資料5）

久保委員	<p>「つかう（仮）」という言葉は、これまでの議論にあった「楽しむ」とか、「活き活きとしている」といったこととは違う表現だと思う。そういった言葉に変えたほうがより大田区らしさが出てくると思う。</p>
屋井委員長	<p>1つの言葉集約させることかどうなのかということを含め、もう少しうまい言葉があれば良い。</p> <p>「サイクルシティおおた」も仮の名称なので、大いにご議論いただいて、最後の最後に言葉を決めればよいと思う。</p>
河野委員	<p>サイクルマップを作るとのことだが、どこで配るのか。</p>
事務局	<p>まだ、先行施策ということもあり、どのように進めるのかについても今後の検討会の中で具体的な場所を検討できればと思っている。</p> <p>まずは、地域に眠る資源を見つけて、次に魅力を結ぶ、その後に観光サイクリングマップを作ること考えている。</p>
鈴木（啓）委員	<p>施策が大田区内だけで考えられているように思うが、多摩川であれば川沿いの他の自治体もある。そうした自治体との広域連携も考えているのか。</p>
谷田川委員	<p>区だけで進めるよりも、幅広くすることで区が活性化するといった話になれば一番良いと思う。</p> <p>例えばシェアバイクは、都内の10区で連携を果たしており、大田区で乗って、千代田区で乗り捨てるといったことが可能だが、同じ事業者がやっている川崎市ではできない。</p> <p>今の意見も踏まえながら、今後、そうした会合で連携を模索することについて意見したい。</p>